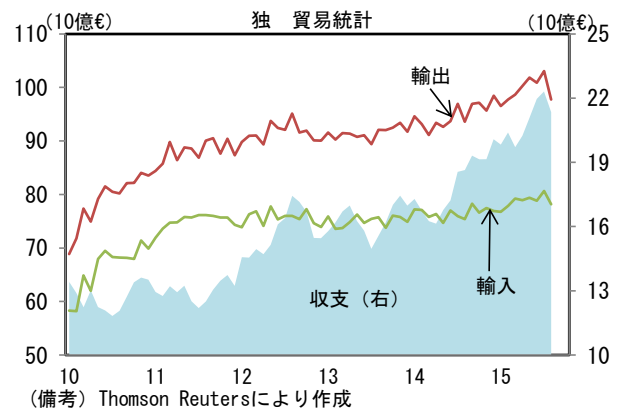
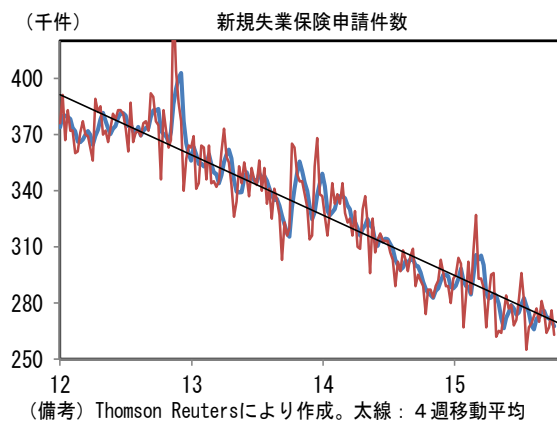


【海外経済指標他】～失業保険申請件数：再び減少～

- ・新規失業保険申請件数は26.3万件と前週から減少して2015年入り後で3番目に低い水準を記録。4週移動平均は26.8万件とこちらも2番目に低い水準まで減少。これは雇用統計NFPの過去2ヶ月の軟調な結果が、統計の振れによって誇張されていたという筆者の見解をサポートする。
- ・8月独貿易統計によると輸出金額は前月比▲5.2%、輸入金額は▲3.1%とそれぞれ市場予想を大幅に下回り、貿易黒字は153億ユーロに縮小。輸出は7月(+2.2%)の増加を踏まえても弱く、6ヶ月ぶりの低水準に落ち込んでいる。既発表の製造業受注と鉱工業生産がともにネガティブサプライズとなったため、もはや意外感はないが、9月以降も弱さが継続するようだ独経済に黄色信号が灯る。目先的には速報性に優れた10月PMI、Ifo指数に注目したいが、自動車大手のスキャンダルがノイズになると予想されるため、評価は難しくなりそう。



- ・9月FOMC議事録はややハト派な印象。議事録では予想通りUSD高、原油安の影響を見極めたいとの記載があったほか、中国経済、金融市場のボラティリティ上昇を懸念する指摘が多くみられた。この段階では、多くの参加者が年内の利上げを主張していたものの、これは軟調な9月雇用統計を入手する前の議論。その後、年内利上げ見送り派に転向したメンバーがいる可能性があるだろう。
- ・BOEはMPCで政策金利(0.5%)の据え置きと資産購入枠の現状維持を決定。例によってマカファティ委員は25bpの政策金利引き上げを主張して反対票を投じた。議事要旨に目新しい箇所はなく、引き続き賃金・雇用が(コア)物価を押し上げていくとのシナリオが維持された。エネルギー価格下落、GBP高の影響が一巡すれば、BOEは利上げの最終決断に踏み切るだろう。
- ・ECB理事会議事録は新味に乏しい内容。唯一、市場参加者の目を引いたのは、12月の流動性枯渇への対応として9月から11月に資産購入を一部前倒しで実行するとした部分。

【海外株式市場・外国為替相場・債券市場】

- ・前日の米国株は続伸。FOMC議事録がハト派と解釈され、議事録公表後に上げ幅拡大。原油価格上昇とそれを受けたエネルギーセクターの強さが目立った。他方、欧州株は区々。
- ・前日のG10通貨はFOMC議事録公表後にUSDが全面安でそれにJPYが続いた。USD/JPYは120近傍で一進一退、EUR/USDは一時1.13近傍まで上昇する場面があった。
- ・前日の米10年金利は2.171%（+3.7bp）で引け。FOMC議事録はハト派と解釈され、米金利は一時急低下したものの、その後は株高もあって低下を帳消しにした。他方、欧州債市場は総じて堅調。独10年金利が0.586%（▲0.7bp）で引けたほか、イタリア（1.686%、▲1.8bp）、スペイン（1.832%、▲0.7bp）も小幅に金利低下。対独スプレッドは横ばい。

【国内株式市場・経済指標他、注目点】

- ・日本株は、米株高に追随して高寄り後、もみ合い。
- ・昨日発表の9月景気ウォッチャー指数は47.5と8月（49.3）から悪化。調査期間が（9月25日から月末）好天に恵まれたシルバーウィーク直後なので、それを加味すると気掛かりなデータだ。内訳は、家計関連が▲1.8悪化の47.5、企業関連が▲1.4悪化の46.9、雇用関連が▲2.5悪化の52.7と押し並べて弱い。「先行き」は49.1と8月（48.2）から改善したが、水準は50を下回っており楽観的な状況ではない。コメントでは、インバウンド需要の先行きを懸念する声がある一方、株価下落の影響が懸念されていたほど大きくないと安堵する声があった。
- ・8日の講演でコチャラコタ・ミネアポリス連銀総裁はFF金利引き下げ（マイナス金利導入）を主張。現在の低インフレを受けFRBが労働市場の再活性化策を講じる機会が存在しているとして利上げを2017年まで見送るべきとの見解。9月FOMCで注目を集めたマイナス金利導入案は（予想されたとおり）コチャラコタ総裁の意見であったことが確定した。同氏は2016年2月に退任予定のため、その点はやや割り引く必要があるものの、足元で俄かにマイナス金利およびQE再開シナリオが浮上しているという事実は把握しておきたい。実際、昨日もブルームバーグがその可能性に関する記事を配信。その内容に一部同意した市場参加者も多かったはずだ。現時点で筆者は緩和再開の可能性が非常に低い（5%未満）と考えているが、年初時点では大半の市場参加者のメインシナリオだった“年内利上げ”の可能性が急低下し、極端なハト派論として切り捨てられてきたコチャラコタ総裁（およびエバンス・シカゴ連銀総裁）の主張・予想が現実味を帯びていることについては、それを軽視したとして反省しておく必要があるだろう。

